

「カーボン・オフセットの取組に対する第三者認証機関による認証基準(Ver.1.1)(案)」に対するパブリックコメントへの対応方針について

該当箇所	ご意見の内容	ご回答
全体について	<p>企業の多くはカーボン・オフセットする意味を理解していないが、コンサートやイベントでオフセットすることは参加者や一般市民を巻き込むよいチャンス。しかし、認証取得時は、カーボンオフセットのやり方を理解することに相当な時間を要したため、負担に感じる企業が多いように思う。オフセットのやり方を分かりやすく説明することがポイントと考える。企業や市民が気軽に参加しやすいモデルを前提に認証基準を検討してほしい。</p>	<p>我が国においてカーボン・オフセットの取組が広まることで、事業者、国民など幅広い主体による自発的な温室効果ガスの排出削減の取組を促進することとなり、京都議定書の目標達成にも資することが期待されることから、2008年4月に、カーボン・オフセットフォーラムを設立し、カーボン・オフセットの取組に関する情報収集・提供、普及啓発、相談支援等を実施しているところです。引き続き、カーボン・オフセットフォーラムによる普及啓発や相談支援を充実させてまいりますとともに、認証基準についてはより分かりやすい内容となるよう平易な表現に努めてまいります。</p>
全体について	<p>カーボンオフセットを普及させる為には信頼性を高める事は当然必要ではあるが、認証基準が複雑になることで審査等に要するコスト増になり、結果消費者の(オフセットに関する)負担に占める、GHG削減プロジェクトへの資金還流の割合が低下することになりかねない。また認証コスト負担が、零細事業者のオフセットへの参入障壁となっていることは否めず、更に認証制度自体が「オフセットを(大企業の)ノベルティ化させている」様にも感じる。いずれにせよ認証制度が、オフセットを国民運動に導いているとは思えない。</p>	<p>カーボン・オフセットの取組に対する信頼性を構築するため、一定の基準を満たしていること等を第三者機関による認定をいう受けラベリングできるように環境省で第三者認証基準を策定しているところですので、利用しやすい認証制度にするために、基準等につきましては、実情にあった形するよう適宜見直しを行ってまいります。</p>
P.13 使用するクレジットについて	<p>認証基準(クレジットの種類)国内クレジットを認めていない理由は何か</p>	<p>認証基準では京都メカニズムクレジット等と同等の信頼性を確保する基準を持つクレジット等を対象としています。基準を満たすクレジットであれば、特定のクレジットを除外するものではありません。環境省は2008年3月から8回に渡り「カーボン・オフセットに用いられるVER(Verified Emission Reduction)の認証基準に関する検討会」を開催し、カーボン・オフセットに用いられるクレジットの基準を満たすVERIについて検討を進めてきました。クレジットの</p>
P.14 オフセット比率について	<p>これまで20%以上であったものが50%以上になるのであれば、認証ラベルを取得しようとする企業にとって更にハードルが高くなる。ボランティアな取り組みに対して高い基準を設定することは、カーボンオフセット、認証ラベルともに一般的な認知度が低い現時点では、認証ラベルの普及を妨げることになりかねない。現時点では、オフセット比率に関しては、敷居を下げて従来どおり20%とし、幅広く認証ラベルの取得を促しカーボンオフセットの取り組み事態を普及させることが重要。</p>	<p>グリーン購入法の前文にカーボン・オフセット認証ラベルが記載されたことから、第三者認証基準を満たすカーボン・オフセット商品等は環境配慮型物品として一定以上の削減効果が確保されることが期待されています。第三者認証基準では、オフセットの取組が信頼性に足るものであり、かつ削減効果が確保されるものとしてより明確な基準を設定することとしました。</p>